

水中の生態系を豊かに

みんなで魚礁づくり

梅田湖で初の体験講座



参加者みんなで作った魚礁の設置作業を行う漁協関係者ら(梅田湖で)

魚のすみかや隠れ場所になる「魚礁」をつくる体験講座が11月29日、桐生市梅田町の梅田湖で初開催された。親子ら約30人が参加し、竹と丸太を材料にした魚礁を製作。魚や水生生物が出入りすることを想像しながら、水中に設置する様子を見学した。

水産庁の支援事業として、西毛漁業協同組合を母体とする市民団体・渡良瀬川水系魚ふれあい振興会(会長＝中島淳志・同漁協組合長)が2013年度から開いている講座シリーズ「ふれあいワークシヨップ」の今年度第2回、通算8回目の講座。魚礁をテーマにしたのは初めてだ。魚礁は、魚がカワウなどから隠れる場所になるほか、木に微生物が繁殖して水生生物のえさになったり、小魚の産卵場所になったりと、生態系を育む「揺りかご」になる。

参加者は、鉄パイプで90センチ角の枠を作り、そこにスギと竹の束をつめる作業を体験。魚が入るように竹の節をくり抜いたり、水に浮く木を1本ずつ選別したり、ブイにカワウが止まらないように工夫したりと、みんなで知恵を出し合って3個の魚礁を作った。

ニジマスの塩焼きで

中島会長は「魚礁は

屋敷後、ボートで禁漁区域の桐生川ダム付近に特別に入り、水面下1センチ停滞するようにブイや重りを調整しながら魚礁を設置する作業を見学した。

桐生タイムス

H27年12月 1日 (火) 掲載

豊かな生態系をつくるための取り組み。どんな魚や生物が集まるかなど今後も継続的に確認し、いずれ観察会を開ければ」としている。